



SFP 対応 SNMP 監視機能付きメディアコンバータ **2020.4.17(4 版)**
DN5520Eシリーズ(Rev. B 以降)
取扱説明書
ご使用前に必ずお読み下さい。
製品仕様はHP上の仕様書を参照下さい。
 URL <http://www.dyden.jp/network/firmware/sw-hub/>
安全にご使用いただくために(使用上の一般的な注意事項)
指定用途以外には使わないで下さい!
 光変換やスイッチングHUB以外の用途にはお使いにならないで下さい。
 また仕様項目を超えない範囲でお使い下さい。

分解しないで下さい!
 取付けであるカバー類は取り外さないで下さい。分解された場合は一切の保証をいたしません。

製品は大事に扱って下さい!
 誤って落としたり、ぶついたりすると製品の性能を低下させますので十分にご注意ください。

異常が起きたら直ちに使用中止!
 使用上、煙・臭い・発火などの異常が起きた場合には、直ちに使用をやめ点検・修理に出して下さい。

条例に従って産業廃棄物として廃棄して下さい!
 本装置を廃棄するときは、地方自治体の条例に従って産業廃棄物として処理して下さい。

本製品のご使用にあたって!
 本製品は、人命に関わる場合(医療、航空、原子力、軍事等)や高度な安全性や信頼性を必要とするシステムへ使用または機器組み込みでの使用を意図した設計および製造は行っておりません。従いまして、これらのシステムへは機器組み込みでの使用と本製品が使用されることにより、お客様もしくは第三者に損害が生じても、かかる損害が直接的、間接的または随時的なものであることかかわりなく、弊社は一切の責任を負いません。
 お客様の責任におきまして、このようなシステムへの使用または機器に組み込んで使用する場合には、使用環境や条件等に充分配慮し、システムの冗長化などによる故障対策や、誤動作防止対策などの安全性・信頼性の向上対策を施すなどご留意願います。

大電株式会社 弊社が製品に貼付する取扱説明書は環境に配慮したインクを使用しております。

- ・リセットスイッチ
 本製品を再起動するためのスイッチです。
 先の細い棒などでリセットスイッチを押すと、本製品はハードウェア的にリセットされます。
- ・表示LEDMODE 切替スイッチ
 本製品の LED 表示状態を変更するためのスイッチです。
 スイッチを押す毎に LED 表示状態が MODE1⇄MODE2 が切り替わります。
- ・OPT PORT スイッチ
 本製品の OPT1 および OPT2 ポートの動作を変更するためのスイッチです。
 SW1(OPT1 ポート用) 押上時:Autonegotiation 動作/押下時:100M 全二重固定動作
 SW2(OPT2 ポート用) 押上時:Autonegotiation 動作/押下時:100M 全二重固定動作
 各ポート個別に設定可能です。
 ※当社 100M 品 SFP を使用した場合は設定に関わらず 100M 全二重固定動作になります。
 強制的に 100M 全二重固定設定にした場合はコンソールにて設定して下さい。
- ・UTP PORT スイッチ
 本製品の UTP1 および UTP2 ポートの動作を変更するためのスイッチです。
 SW1&2(速度設定用) SW1 押上&SW2 押上時:Autonegotiation 動作
 SW1 押下&SW2 押上時:100M 固定動作
 SW1 押下&SW2 押上時:100M 固定動作
 SW1 押下&SW2 押下時:10M 固定動作
 SW3 押上時:UTP ポート全二重動作/押下時:半二重動作
 2 ポート一括設定となります。
 ※各ポート個別に設定したい場合はコンソールにて設定して下さい。
- ・表示LED

LED	表示内容
PW1~2	電源供給時に点灯(緑)
STATUS	リセット中またはFlashROM書き込み時に点灯/SW-HUBモード動作時に点滅(緑)
O1~2 (LK1/SPD)	LEDMODE1光OPT1~2ポートリンク確立時に点灯 /SD検出時に低速点滅(緑)/データ送受信時に点滅(緑) ※1 MODE2光OPT1~2ポート100M動作時に点灯/100M動作時に点滅(緑)
L1~2 (LK1/SPD)	LEDMODE1光OPT1~2ポートリンク確立時に点灯 /SD検出時に低速点滅(緑)/データ送受信時に点滅(緑) ※1 LEDMODE2光OPT1~2ポート100M動作時に点灯 /100M動作時に点滅/10M動作時に点灯(緑)
T1-FDX	UTP1ポート 全二重でリンク確立時に点灯(緑)/半二重でリンク確立時に消灯UTP1~2ポート
T2-FDX (LED MODE)	点灯もしくは消灯時にLEDMODE1表示 UTP2ポート FDX表示 全二重でリンク確立時に点灯(緑)/半二重でリンク確立時に消灯 O1~2LK1/SPDおよびT1~2LK1/SPDはLEDMODE1動作 点滅時LEDMODE2表示 O1~2LK1/SPDおよびT1~2LK1/SPDはLEDMODE2動作

警告
 指定の電圧以外で使用しないで下さい。
 指定電圧以外で使用するとは火災や感電、故障の原因となります。
 ・AC電源プラグはACコンセントに確実に差込んで下さい。
 電源プラグの列に金属などが触れるとは火災や感電、故障の原因となります。
 ・端子台の接続は通電する前に行ってください。
 電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
 ・電源の接続は相応の訓練を受けた人が行って下さい。
 電源の短絡事故や火災、感電を招く恐れがあります。
 ・アース線を必ず接続して下さい。
 アースを接続しないと感電の原因となります。
 ・水につけたり、水をかけたりしないで下さい。
 漏電による火災や感電、故障の原因となります。
 ・浴室や加湿器のそばなど湿度の高い所では使用しないで下さい。
 漏電による火災や感電、故障の原因となります。
 ・静電気注意!
 本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。静電気による故障・誤動作を防ぐため、製品に触れる前には除電を行ってください。

注意
 ・電源プラグを抜くときは、電源プラグを持って抜いて下さい。
 電源コードを引っ張るコードの損傷が発生し火災や感電の原因となることがあります。
 ・濡れた手で製品に触れないで下さい。
 故障や感電の原因となることがあります。
 ・アース線の接続及び取外しをする場合は、AC電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC電源は電源コネクタを取外して下さい。
 電源を接続したままアース線の接続や取り外しをすると感電や故障の原因となることがあります。
 ・本機をストーブなどの熱源具のそばに置かないで下さい。
 ケーブルの被覆が溶けて火災や感電の原因となることがあります。
 ・本機を直射日光の当たった所や温度の高い所で使用しないで下さい。
 内部の温度が上がり火災や故障の原因となることがあります。
 ・放熱スリットや隙間に針金や金属物などの異物を入れないで下さい。
 内部に触れ感電やけが、故障の原因となることがあります。
 ・放熱スリットを塞がないで下さい。
 スリットを塞ぐと内部に熱がこもるため故障の原因となります。
 ・本装置をほこりの多い所や油煙のあたる所で使用しないで下さい。
 火災や故障の原因となることがあります。
 ・本装置を不安定な場所または振動や衝撃の多い場所に置かないで下さい。
 落下などにより、けがや故障の原因となることがあります。
 ・本装置に組み込む SFP モジュールはクラス1レーザ製品です。
 クラス1レーザが合理的に予測可能な運転条件下で安全であるレーザです。

※1: OPT ポートは常時 SD 検出可能ですが、UTP ポートは LPT 有効時または Autonegotiation、1000M 固定設定時のみ SD 検出可能となります。


別売品

下記部品については、添付していませんので別にご準備下さい。
 ・ツイストペアケーブル:
 10・100M動作時:
 TIA/EIA-568-A に適合するカテゴリ5以上の UTP ケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを接続したものを
 ご使用下さい。
 ※モジュラーコネクタはストレート接続、クロス接続のどちらでも使用できます。
 ※UTP ケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。
 1000M動作時:
 TIA/EIA-568-B に適合するエンハンストカテゴリ5以上の UTP ケーブルに RJ-45 モジュラーコネクタを結
 続したものを ご使用下さい。
 ※モジュラーコネクタはストレート接続、クロス接続のどちらでも使用できます。
 ※UTP ケーブルは 100m 以下の長さでご使用下さい。
 ※モジュラーコネクタの接続はフル接続(8ピン全て接続)品を使用して下さい。

・RS-232C ケーブル(コンソール用):
 専用の RJ-45(D-sub9 ピン)メス変換の RS-232C ケーブルをご使用下さい。
 なお、ケーブルは Cisco 社製 SW-HUB 用のコンソールケーブルが使用可能です。

・SFP モジュール:
 SFP MSA 規格に準拠した SFP モジュールをご使用下さい。なお、温度保証の点から当社 SFP を使用する
 ことをお勧めします。
 DM1 機能付きの SFP を使用する場合はのみ実装しては SFP モジュールの監視が可能です。

・端子台用ケーブル(電源出力用):
 AC 版で 125V を超えるものや DC 電源を使用する場合には、AWG20~AWG16(0.5mm²~1.25mm²)相当の
 電線に圧着端子を取付けて本体端子台に取付けて下さい。(適合する電線サイズは、使用する圧着端子
 の仕様に従って下さい)本機の仕様書に適合する圧着端子は下図を参照して下さい。



・端子台用ケーブル(電源用):
 AC 版で 125V を超えるものや DC 電源を使用する場合には、AWG20~AWG16(0.5mm²~1.25mm²)相当の
 電線に圧着端子を取付けて本体端子台に取付けて下さい。(適合する電線サイズは、使用する圧着端子
 の仕様に従って下さい)本機の仕様書に適合する圧着端子は下図を参照して下さい。

2. 概要
2.1 ハードウェア
 本製品のハードウェア的な概要は次の通りです。
 インターフェース
 DN5520E シリーズ:(100BASE-FX/100BASE-X SFP)×2、
 (10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T)×2

1. 装置各部の説明/付属品

本体

- ・DN5520E-AC / DC
- AC 端子台シール
- DC 端子台シール
- 取付金具
- 電源プラグ(3種)※1
- 電源アースシール※2
- PW1 電源シール※2
- PW2 電源シール※2
- 端子台
- ロッドシール
- 型番シール
- 環境シール
- SFP キーインターフェイス×2 (100M/1000M×2)
- 9Pin キーインターフェイス (RJ-45)×2
- コンソールポート

※1: AC 入力タイプのみ。
 ※2: DN5520E-AC/-DC は PW1 ののみ実装し PW2 はブラックパネルを取付けています。
 ※3: 入力電源の仕様により背面の状態が異なります。

- 入力電源二重化対応
 DN5520E-AC: PW1 AC100/240V 入力/PW2増設用
 DN5520E-DC: PW2 DC24/48V 入力/PW2増設用
 DN5520E-AC/DC: PW1 AC100/240V 入力/PW2 DC24/48V 入力
 DN5520E-AC II: PW1 AC100/240V 入力/PW2 AC100/240V 入力
 DN5520E-DC II: PW1 DC24/48V 入力/PW2 DC24/48V 入力
 接続点の端子台を1組接続
 コンソール用の RJ-45 モジュラーケーブルを1ポート搭載
 接続は専用の RJ-45/D-sub9 ピン(メス)変換 RS-232C ケーブルを使用

- 2.2 サポート機能**
 本製品の主な機能は次の通りです。
 ストア&フォワードのスイッチング方式
 ポート毎に通信モードが設定可能
 ログイン機能
 フローコントロール機能
 HOL フロッキング機能
 ポートミラーリング機能
 最大1,000個の MAC アドレスを学習可能
 MAC アドレス学習時間が設定可能(300秒/ラーニングディセーブル設定可能)
 最大パケット長が設定可能(1522/1632bytesより選択)
 SNMP エージェント機能による管理可能(SNMP1/v2c サポート)
 RS232C や Telnet で接続しているコンソールから内蔵ソフトウェアへのアクセスが可能
 FTP によるソフトウェアのアップロードが可能
 最大3,000件の履歴情報の取得が可能
 SFP インターフェース/温度/電圧監視機能
 本装置及びケーブルのマスク機能
 SYSLOG 機能
 SNMP 機能

2.3 特徴
 本装置は光ファイバによる 1000BASE-X および 100BASE-FX と UTP による 10/100/1000BASE-T のインターフェースを持ち、AC 入力/DC 入力に対応したメディアコンバータです。光⇄UTP 変換時はメディアコンバータ2台分として、光⇄光変換時はメディアコンバータ1台分として動作します。設定変更によって、4ポートのスイッチングハブとしても動作可能です。

・UTP⇄光 MC モード

・光⇄光 MC モード

・SW-HUB モード

4ポート SW-HUB

付 属 品

(ACコード)・・・AC 版には電源プラグ付きコードが取付けられています。
 AC125V 定格品です。AC200V 以下で使用する場合には使用電圧に適合したケーブルを別途ご用意下さい。

(変換プラグ)・・・AC 入力仕様時に AC 品は 1 個/-AC/DC 品は 1 個/-AC II 品は 2 個付属しています。
 出荷時に電源プラグに装着されています。

(ブラックパネル)・・・DN5520E-AC/DC / -AC II / -DC II 版には 1 個付属しています。
 DN5520E-AC / -DC 版は PW2 に取付けています。

(取付金具)・・・2 個付属しています。

固定穴(下面固定時)×2 (φ3.5)

固定穴(19 インチラック固定時)×3

固定穴(マグネット固定時)×2(M3)
 ※マグネット非対応品

本体取付穴(下面固定時)×2 (φ3.5)

本体取付穴(19 インチラック固定時)×2 (φ3.5)

各種スイッチ、表示LEDおよび電源コネクタ

・端子台
 接続ピッチ:M4
 ピン配置:

	端子番号	DC	AC
1	FG	FG	
2	+	N	
3	-	L	

・DN5520E

リセットスイッチ

表示 LED

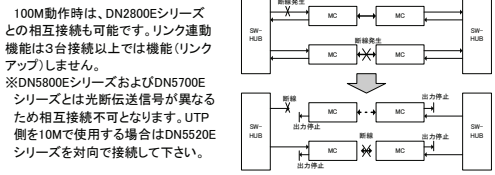
表示 LEDMODE 切替スイッチ

UTP PORT スイッチ

OPT PORT スイッチ

【リンク連動機能について】
 本装置にはリンク連動(以下LPT)機能があります。LPT機能とは、メディアコンバータ(以下MC)で受信のリンク断を検出した場合にMCの送信をOFFにする機能です。この機能により、MCを挟んで対向するリンク連動機能は3台接続以上では機能(リンクアップ)しません。
 ※対向機器の仕様(1000BASE-T側機器が1000BASE-T Half Duplex サポート情報を送信する製品)はリンクアップしない場合がありますので正常に動作する設定でお使い下さい。あらかじめ相互接続試験を行うことをお勧めします。

1000M動作時、この機能は光部Autonegotiation信号を用いて実現しているため、Auto設定時にしか有効になります。また、DN1800EシリーズおよびDN510Eシリーズとの相互接続も可能です。リンク連動機能は3台接続以上では機能(リンクアップ)しません。
 ※DN5800EシリーズおよびDN5700Eシリーズは光断伝送信号が異なるため相互接続不可となります。UTP側を10Mで使用する場合はDN5520Eシリーズを対向で接続して下さい。



※光⇄UTP⇄光変換の為 MC を Back To Back 接続した場合、LPT は動作しません。
 光間で LPT を動作させたい時は光⇄光モードを使用して下さい。
 ※SW-HUB モード動作時も MC モードと同様に LPT は動作します。

3. 種々の接続・取付け

UTP ケーブルの接続

①RJ-45 モジュラーコネクタを取付けた UTP ケーブルを、本体のメタルポート インターフェースに接続して下さい。

※モジュラープラグのレバーロックが「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。

レバーロック

カチッ

※モジュラーコネクタを取外す際には、レバーロック部をモジュラーコネクタに押し当てた状態のままコネクタを引抜いて下さい。
※ロックされた状態で無理に引抜くと、モジュラーコネクタや本体を破損する恐れがあります。

※UTPケーブルはコンソールポートへは差込まないで下さい。

RS-232Cケーブル(コンソール用)の接続

- ①専用のRJ-45/D-Sub9(メス)変換のRS-232Cケーブルをご使用下さい。
- ②RJ-45モジュラーコネクタ側を本体のコンソールポートに接続して下さい。
※接差しの裏面についてはUTPケーブルと同様です。
- ③RS-232Cケーブルはメタルポートインターフェースへは差込まないで下さい。
- ④D-Sub9ピン側をPC等の端末に接続して下さい。
※端末機D-Sub9ピン(オス)以外の場合は別途変換コネクタを用意して下さい。
※端末機については、VT100をサポートした通信ソフトウェアが動作するPCを使用して下さい。
※通信ソフトウェアの設定については、取扱説明書(ソフトウェア)を参照下さい。

端子台用ケーブル(接点出力用)の接続

- ①電線の被覆を約10mm剥ぎ取ります。
※使用可能な電線サイズは「別売品」を参照して下さい。

- ②マイナスドライバーなどの工具を使って、リリースボタンを押込んだ状態にして、電線を奥まで差込みます。



- ③リリースボタンを離すと、電線がロックされます。
電線が軽く引っ張りロックされていることを確認して下さい。

※接点は無電圧接点です。

SFPモジュールの接続

- ①SFPスロットに付いているダストカバーを外します。
- ②SFPをスロットに差し込み「カチッ」と音がするまで確実に差込んで下さい。なお、差込む際にはハンドルを上げた状態で差込んで下さい。
- ③SFPモジュールを取外すときは、まず光ケーブルを取外して下さい。
- ④SFPのハンドルを下げてスロットへの固定を解除します。
- ⑤SFP本体を持って引抜いて下さい。



- ③電源ユニットを本機背面部から20~30mm程度手前まで差込んで電源コネクタをロック機構が右側になるようにして接続して下さい。

- ④電源コードに注意しながら電源ユニットを奥まで押込んで本機背面部の2ヶ所をネジ止めて電源ユニットを固定して下さい。
- ⑤取付けた電源ユニットの電源をオンにしてPW1もしくはPW2 LED(1P:OP.PW1/2P:OP.PW2)が点灯するか確認して下さい。

注:交換する電源ユニット以外の基板・コネクタ等に触れないで下さい。
故障・誤動作の原因となります。

※運用中の電源部に触れない様に作業を行えばホットスワップも可能です。

6. 設定及び設置時の注意

設定時の注意

- ①本装置はコンソール接続もしくはUTPケーブルを介してのTelnet接続によって様々な機能をCLI(Command Line Interface)で設定することができます。詳細は、取扱説明書(ソフトウェア)を参照して下さい。

- ②本装置のファームウェアを更新するときは完了するまで(STATUS LED 点灯中)電源断・リセット・リンクダウン等が発生しないようにして下さい。
※更新途中で作業が中断されると起動しなくなる可能性があります。

- ③本装置の設定を保存するときは起動するまで(STATUS LED 点灯中)電源断・リセット等が発生しないようにして下さい。
※保存途中で作業が中断されると起動しなくなる可能性があります。

設置時の注意

- ①本装置は、ほこりや湿気が少なく直射日光の当たらない場所に設置して下さい。

- ②本装置を設置する際に本製品の通気口を塞がないようにして下さい。

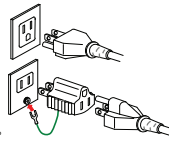
- ③本装置を横置きもしくは縦置きで使用する場合には、落下の危険がない平らな場所に設置して下さい。

- ④本装置を横置きもしくは縦置きで使用する場合には、空調が十分に効いた空間に設置して下さい。

端子台の接続

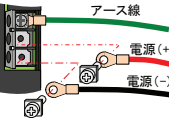
[AC100V電源の場合]

本機の電源及びFGは、ACコードに接続されていますので接地極付きコンセントに接続して下さい。
接地極なしのコンセントを使用する場合は、変換プラグの口出し線を接地端子に接続して下さい。

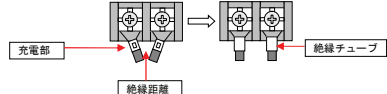


[AC200VやDC電源の場合]

- ①アース線及び電源線に圧着端子を取付けて下さい。
- ②端子台のカバーを開き、アース線及び電源線を端子台に取付けて下さい。
(推奨締付トルク1.2N・m)
※極性表示シール通りに極性を間違えないように接続して下さい。
※電源線およびアース線を接続するときは、通電していないことを確認してから行って下さい。



- ③標圧着端子を使用する場合は、充電部が露出しないように絶縁チューブ等により必要な絶縁距離を取って下さい。
※短絡等により感電や誤動作する可能性があります。



※電源を二重化してご使用の場合には、それぞれの電源ユニットについてアース接続を行って下さい。

4. 接続状態の確認

電源の確認

AC入力仕様時はACコードをACコンセントに接続した状態で、DC入力仕様時は端子台にコードを接続した状態で本体表示LEDが緑色に点灯していることを確認して下さい。電源ユニット(PW1)側が「PW1」LEDに電源ユニット(PW2)側が「PW2」LEDに対応しています。



7. 装置の取付け

設置方法

本装置の設置方法はねじ固定と19インチラック固定の2種類があります。

[ねじ固定の場合]

- ①幅広い面が固定面に接触するよう、同梱のネジで取付金具を取付けて下さい。
- ②下図に示す穴に呼び径3以上のネジ(添付なし)を使用し、固定面に取付けて下さい。付属のネジを使用する

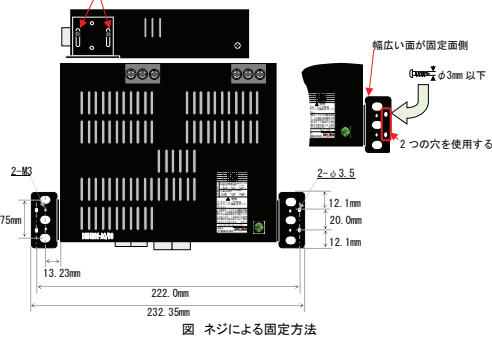


図 ネジによる固定方法

[19インチラック固定の場合]

- ①幅広い面が全面にくるよう、同梱の皿ネジで取付金具を取付けて下さい。
- ②下図に示す穴にM5のネジ(添付なし)を使用し、19インチラックのレールの片側に取付けて下さい。

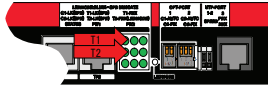


図 19インチラックへの固定方法

*JIS規格のラックの場合、
中段のネジ穴1本でもご使用
いただけます。

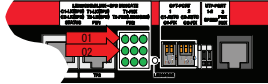
UTPケーブルの確認

UTPケーブルを10/100/1000BASE-T対応の機器(パソコンやルーター、スイッチングハブ等)に接続し、本体表示LEDのTP1ポート側は「T1-LK(SPD) LED」、TP2ポート側は「T2-LK(SPD) LED」が点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。
※UTPを介して接続されている装置の電源が投入されていない場合には確認できません。
※本機器の設定およびUTPを介して接続されている装置の設定状態によってはLEDの点灯状態は異なります。
※LEDMODE2の場合はリンク状態を確認できませんのでLEDMODE1で確認して下さい。



SFPモジュールの確認

SFPモジュールを差込んで光対向機器と光ファイバを接続した状態で本体表示LEDのOPT1ポート側は「O1-LK(SPD) LED」、OPT2ポート側は「O2-LK(SPD) LED」が緑色に点灯(もしくは点滅)することを確認して下さい。
※SFPモジュールが正常に差し込まれていない確認できません。
※光ケーブルを介して接続されている装置の電源が投入されていない時には確認できません。
※1000BASE-X用SFPのPortがAuto設定時は、光対向側も同様にAutonegotiation設定になっていないとリンクアップしません。



5. 電源ユニットの交換

電源ユニットの取外し

- ①交換する電源ユニットの電源をオフ(AC電源は電源プラグをコンセントから抜き、DC電源はブレーカを切るか電源装置から取外す)して下さい。
- ②本機背面部のネジ(2ヶ所)を取外して電源ユニットを20~30mm程度手前に引いて下さい。
※電源ユニットを強く引っ張らないで下さい。
引っ張りすぎると断線等の故障の原因となります。



8. こんな時は

故障かなと思った場合には修理を依頼する前に確認して下さい。

【PW+ LED が点灯しない】

- 確認①: ACコードはコンセントにきちんと根元まで接続されていますか?
- 確認②: DC電源のブレーカはONになっていますか?
- 確認③: 電源を交換した場合は手順に沿って行いましたか?

【T+LK(SPD) が点灯しない】

- 確認①: モジュラーコネクタは確実にロックされていますか?
- 確認②: モジュラーコネクタの電源は入っていますか?
- 確認③: 接続相手の機器の設定と本装置の設定はあっていますか?
- 確認④: UTPケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか?
代替のUTPケーブルで接続してみて下さい。
1000M使用時はモジュラーコネクタがフル絡線である事を確認下さい。
使用時: 低速点滅していませんか?
対向機器から信号を受信しているSignal Detect状態になっている状態になっていないためUTPポートの状態および設定、UTPケーブルの接続状態を確認下さい。
- 確認⑤: LEDMODE2になっていませんか?
LEDMODE2は速度表示になりますのでLEDMODE1で確認下さい。

【O+LK(SPD) が点灯しない】

- 確認①: SFPはきちんと根元まで接続されていますか?
- 確認②: 光コネクタの端面は汚損がなく確実にロックされていますか?
コネクタの端面を清掃し、再度抜き差しして下さい。
- 確認③: 光ケーブルが断線や異常損失を起こしていませんか?
- 確認④: 指定SFP機種以外の通信禁止機種が働いていませんか?
sfpmitig -a コマンドでSFPの状態を確認して下さい。
- 確認⑤: 使用SFPと機器の速度設定は同じですか?
- 確認⑥: 低速点滅していませんか?
対向機器から信号を受信しているSignal Detect状態になっている状態になっていないため光ポートの状態および設定、光ケーブルの接続状態を確認下さい。
- 確認⑦: LEDMODE2になっていませんか?
LEDMODE2は速度表示になりますのでLEDMODE1で確認下さい。

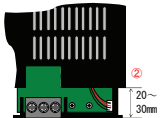
【通信ができない】

- 確認①: ポート設定が無効になっていませんか?
portconfg -a コマンドでポートステータスを確認して下さい。
- 確認②: MCの組合せは間違っていないですか?
MCモード時は設定によりTP1⇔OPT1/TP2⇔OPT2、TP1⇔TP2/OPT1⇔OPT2間で通信します。

【CONSOLE が接続できない】

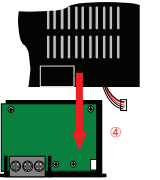
- 確認①: ケーブルや変換コネクタは正しく接続されていますか?
- 確認②: 通信ソフトウェアの設定内容は、本装置に合わせていますか?

- ③電源ユニットのコネクタロック機構(背面)に向かって右側)を押し当てからコネクタを上引っ張りながら取外して下さい。
※無理に引っ張らないで下さい。
引っ張りすぎると断線等の故障の原因となります。



- ④電源ユニットを完全に引抜いて下さい。

- ⑤新たな電源ユニット取付ける場合は、「電源ユニットの取付け」を参照して下さい。
電源ユニットを取付けず、一方の電源のみで使用する場合は必ずブラックパネルを取付けて下さい。



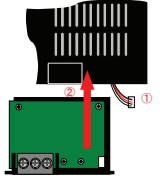
注: 交換する電源ユニット以外の基板・コネクタ等に触れないで下さい。
故障・誤動作の原因となります。

※運用中の電源部に触れない様に作業を行えばホットスワップも可能です。

電源ユニットの取付け

- ①本機背面から電源ユニットコネクタを取出して下さい。

- ②電源コードを強く引っ張らないで下さい。
引っ張りすぎると断線等の故障の原因となります。



- ③取付ける電源ユニットを本機背面に差込んで下さい。
その時に電源コードは上板のネジ固定部の右側を通すようにして下さい。

- ④電源コードを左側に通した場合、取付け不良やコードを破損する可能性があります。

※電源コードはネジ固定部の右側を通して下さい。

SFP対応SNMP監視機能付きメディアコンバータDN5520Eシリーズ保証書

ロットNo. S/N (印字欄に記録)	
お客様(御社名)	
お名前(ご担当名)	
ご住所	
T E L	
F A X	
ご購入日	年 月 日
保証期間	ご購入日より5年間(センドバック修理対応)
販売店	
販売所	
店 T E L	
備考	

*保証外条件
保証期間内であっても、次の場合は保証外となりますのでご了承下さい。
1. 取扱説明書に記載の使用方法及び注意事項等をお取り扱い及び不当な修理や改造によって生じた故障及び損傷
2. ご購入後の輸送、移動中の落下等、お取り扱いが不適当なために生じた故障及び損傷
3. 火災、地震、風水害、落雷、その他天災地変及び指定外の使用電圧による故障及び損傷

『営業窓口』大電株式会社 ネットワーク機器部 営業課
コールセンター(デカカサバ)窓口 ☎ 0120-588-545 (携帯:PHSにも対応)
e-mail: comminfo@dyden.co.jp
東京: 〒113-0033 東京都文京区本郷2-3-9 ツインビュ-御茶ノ水3階
TEL (03)5684-2100【代表】
名古屋: 〒460-0002 愛知県名古屋市中区丸の内1-15-20 いわの内のビルディング4階
TEL (052)211-1888【代表】
大阪: 〒941-0041 大阪府中央区北浜4-7-28 友友ビルディング2号館1階
TEL (06)6229-3535【代表】
九州: 〒849-0124 佐賀県三基郡上峰町2100-19
TEL (0952)52-8546【代表】